

## 令和2年度 第11回教育委員会定例会

### 日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和3年2月9日(火)	教育長 坂元 裕人	教育総務課長 鹿屋 勉
午後2時00分	教育委員 田原 正人	学校教育課長 今井 誠
↓		
午後4時30分	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 紺屋 昭男
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	国体推進課長 米田 昭嗣
	教育委員 福里 由加	

### 会議要旨

#### 1 開会

定刻、定足数に達しており、令和2年度第11回教育委員会定例会を開会した。  
議案第1号及び議案第2号は、教育長から、非公開で審議する旨の発議があり全会一致で議決された。

#### 2 令和2年度第10回定例会会議録の承認

承認

#### 3 議事

報告第1号 垂水市公民館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について

報告第2号 令和2年度垂水市地区公民館館長代理の任命について

報告第3号 令和2年度垂水市一般会計補正予算(第14号)案についての市長への意見申出について

議案第1号 垂水市学校教職員住宅管理規則の一部改正について

議案第2号 令和3年度垂水市一般会計当初予算案に関する市長への意見申出について

#### 4 その他

#### 5 委員並びに教育長及び課長報告

6 閉 会

議 決 事 項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
<p>報告第1号 垂水市公民館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について</p>	<p>垂水市公民館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>報告第2号 令和2年度垂水市地区公民館館長代理の任命について</p>	<p>令和2年度垂水市地区公民館館長代理の任命について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>報告第3号 令和2年度垂水市一般会計補正予算（第14号）案に関する市長への意見申出について</p>	<p>令和2年度垂水市一般会計補正予算（第14号）案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したこと、及びその内容について報告するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>議案第1号 垂水市学校教職員住宅管理規則の一部改正について</p>	<p>柗原小学校教頭住宅の解体撤去に伴う垂水市学校教職員住宅管理規則の一部改正について、教育委員会に議決を求めるものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	承認
<p>議案第2号 令和3年度垂水市一般会計当初予算案に関する市長への意見申出について</p>	<p>令和3年度垂水市一般会計当初予算案に関して市長へ意見を申し出ることについて、教育委員会に議決を求めるものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	承認

## 議 事 内 容 等

3 議 事	<p><b>報告第 1 号</b> 垂水市公民館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について</p> <p>社会教育課長 会計年度任用職員制度導入に伴い各地区公民館に館長代理の職を置く必要が生じたため、垂水市公民館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正を教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容を説明。 (質疑なし)</p> <p><b>報告第 2 号</b> 令和 2 年度垂水市地区公民館館長代理の任命について</p> <p>社会教育課長 令和 2 年度垂水市地区公民館館長代理の任命について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容を説明。 (質疑なし)</p> <p><b>報告第 3 号</b> 令和 2 年度垂水市一般会計補正予算（第 14 号）案に関する市長への意見申出について</p> <p>教育総務課長 第 14 号補正予算案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したことを報告するとともに、その内容（垂水島津家墓所災害復旧関連予算の減額、図書館改修工事関連予算の減額等）について説明。 (質疑なし)</p> <p><b>議案第 1 号</b> 垂水市学校教職員住宅管理規則の一部改正について (非公開) (議案第 1 号 承認)</p> <p><b>議案第 2 号</b> 令和 3 年度垂水市一般会計当初予算案に関する市長への意見申出について (非公開) (議案第 2 号 承認)</p>
4 その他	なし

5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告
教育長	委員並びに教育長及び課長報告に入る。
田原委員	<p><b>白山登山道整備作業の進捗状況について</b>  今日は白山登山道整備作業の進捗状況を説明したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1月17日（日）  当初1月10日を予定していたが、その前後が寒すぎて山頂に雪が積んでいる状況だったので、作業を1週間延期して17日に実施した。晴天無風の温暖な天気にも恵まれ、26人が参加し山頂の見晴らしをよくする作業や6合目から9合目の急坂の階段づくり、ロープや道標の取り付けなどの作業を分担して進め、白山の上部がとても登りやすい山に変身した。  特に山頂は、周囲200度ぐらいの眺望が得られ、垂水山岳会の会長、赤塚州男氏が「白山がよみがえった。素晴らしい眺めだ。」と、感嘆の言葉を掛けてくれたのにはこちらまで嬉しくなった。</li> <li>・2月7日（日）  白山登山道整備作業の第2回目で、今回は、登山道入り口から4合目林道付近までの作業である。雑草や小樹木が生い茂り夏場は登山道がトンネル状態になる所で、登山道の左右2メートルぐらいの範囲を刈り取って、夏でも何の障害もなくすっきりとした道を登れるようにした。  今回も31人と参加者が多く4班に分かれての作業でとても効率よくできたので、今回をもって白山登山道整備を終了することとした。  作業に参加してくださった水之上振興連や公民館運営委員の方々、活動に賛同してくださった一般の方々、垂水山岳会の皆様のご尽力に心から感謝する。今年は、おんだんこら祭りは実施できないが、白山登山道を整備したので、たくさんの方々が登って白山神社参拝をしていただければ幸いである。1時間30分で登れる山なので、家族や友人で登り日常的に登山を楽しむ身近な山となることを願っている。  市報の「絶妙景観」などで山頂からの眺望を紹介してもらえば、白山登山がより身近になるのではないかと思う。事務局からは是非連絡を取っていただきたい。</li> </ul>
葛迫委員	<p style="text-align: center;">しょうじ</p> <p><b>『北迫正治』移動原画展について</b>  昨年秋、9月1日から30日まで、垂水市図書館において北迫正治原画展（秋の章）が開催された。垂水市内外から多くの一般来場者が訪れ、「彼の描いた絵と詩に感動した。」「『むべ』、『栗』、『野に咲く花』など遠い日に想いを巡らせた。」など多くのメッセージが寄せられた。  しかし、本市の小中学生や高校生の来場者が少なかったという意見があったことで、今回は垂水市内の小学校・中学校・高校に出向いての展覧会をやってみようという試みで、2月1日から2月26日まで『北迫正治』移動原画展（春の章）とした名称で現在展示開催している。  2月1日から5日までは垂水中央中学校で10点、垂水小学校に5点を展</p>

示した。2月8日から13日までは、垂水高校に10点、協和小学校に5点を展示している。今後、2月15日から19日までは境小学校に5点、牛根小学校に5点、松ヶ崎小学校に5点を展示し、2月22日から26日までは新城小学校、柗原小学校、水之上小学校の3校に5点ずつを展示し、最後に垂水市立図書館に20点を展示し、3月2日から4月4日まで開催する予定である。

#### 放浪の画家 山下清氏の絵画について

南日本新聞2月1日付けの「南風録」に、放浪の画家山下清氏のことを掲載されていた。そこで、垂水市文化財保護審議会委員の瀬角龍平さんから垂水市所蔵の山下清氏の作品4点を点検してくれという依頼があり、市長室、教育長室に展示してある2点と文化会館所蔵品の2点を拝見させてもらった。その中の油彩画で「江の島と桜島」が描かれた作品に、紙魚（しみ）という虫が発生していた。紙魚は湿ったところに発生し、紙や衣類を食害するので、作品の保護のために2～3年に一度は市が所蔵する作品を点検した方がいいのではと思ったところである。

また、北迫正治さんの作品の状態も同じように点検していこうと思っている。作品を展示することで作品の状態が分かるので、何年かに一度でも市民の方々に市内にある文化財を見てもらおうことが作品の劣化を防ぐことにもなると思っているところである。

#### 生涯学習推進会議（2月9日10時）について

本日の午前中は、令和2年度生涯学習推進会議に参加した。会議ではコロナ禍の影響で受講者が半数にまで減少したこと、密になることを理由に中止とせざるを得なかった講座があったことなど含む本年度の実績の報告や、来年度のオープニングフェアの開催方法など来年度の事業計画が示され、活発な意見が交わされた。今はコロナ禍の中で日常が非日常になっているが、これをどうやって乗り越えていくかがこれからの課題になってくるのだろう。

田之上委員

#### 雑感（子供たちの成長について感じること）

日々見ていると気づかないが、改めて昨年の春の頃を思い出してみるとしっかりしてきたなと感じている。

一つ目は、生活のリズムができ自分で考えて行動できるようになってきたこと。中には、自分で考えて方法を変えて行うことができる子もいる。

二つ目は、自己主張・自己表現ができるようになってきたこと。初めは、大人を介していたことが、自身で対応するようになってきた。言葉でうまく伝えることができず、泣いてしまったり、喧嘩になってしまったりすることもあるが、考えを伝えようとしている様子が伺える。

コロナ禍での生活も日常になりつつあるが、やはり制約のある生活である。子どもたちが元気で、そして笑顔でいてくれることに救われている日々である。

福里委員

### 子どもたちの学校生活について（保護者の目から）

#### (1) 学習定着度テスト

5年生の息子の定着度テストが終わり、今はまだ詳しい点数は分からないが、去年より平均点が下がったと先生に言われたようだ。算数は24問中20問間違っていた子がいた一方で全問出来た子もいたということで、学力の差が大きいと感じたところだ。

#### (2) 縄跳び大会

今年の大会は、コロナのため2月10日と12日の2日間に分けて実施し、保護者の見学は遠慮していただくということだった。今、子どもたちは大会に向けて一生懸命長縄跳びの練習をしているところだが、いろいろと問題があるようである。大会に向けた取り組みは各クラスで随分違って、担任の先生が一生懸命なクラスは全員参加で朝練をしていて、200回以上飛べる。息子のクラスは子どもたちに任せた自由練習のため朝の練習に来る子と来ない子がいて100回も飛べないようである。

先日は、うまくなりたい思いからクラスで話し合いがありいろいろな意見が出たらしい。「長縄を回す人が悪い。」との意見にその役割の女の子が泣き出したり、跳び方のことで男子と女子で言い争いがあったり少し揉めたようである。

ある先生が週報に「行事に向けて頑張ることが成長につながる。」と書いていたように、トラブルを一つ一つクリアすることで成長していくのだろう。

#### (3) 垂水小学校の学校キャラクター

垂水小学校のキャラクターを決めるらしく、子どもたちが応募用紙を持って帰ってきた。学校キャラクターは、新城小学校の「新城たまねぎまん」、水之上小学校の「優心くん」「ゆたかにみのる君」など各学校で取り組んでいて、新城小学校のキャラクターを見せたところ5年生の息子は一生懸命取り組んで「オナガヤン」というテレビの戦隊キャラクターのようなキャラクターを制作して応募した。先生に褒められたと喜んでいる息子の姿を見て、選ばれたらいいなと思っているところである。学校では勉強だけではなく目標にすることがいろいろあって、子どもたちはすごく楽しそうに学校に通っている。

#### (4) 給食のサイコロステーキ

最近、給食にサイコロステーキが出るらしく、子どもは大変喜んでいる。ただ、家で子どもと話をする中で感じることは、垂水の給食は本当にすごいんだよということ子どもたちは分かっていないのではないかということだ。全国表彰を何度も受ける垂水市の給食のすごさを子どもたちが知らないということは残念なことだ。先生たちから子どもたちにもっと垂水市の給食の話をしていただくと、ありがたさが分かりおいしく食べられて、残食も減るのではないかと思うところである。

教育長

### 新型コロナのクラスター発生について

市内の介護施設でクラスターが発生し、施設職員、入所者に多くの感染が確認された。幸いなことに今は新しい感染者もなく、次に実施するスクリーニング検査で陽性が確認されなければ一段落というところだ。

私が危惧したことは、感染者や関係者に対する偏見・差別、誹謗中傷がないだろうかということであったが、幸い、教育委員会にはそのような話が聞こえてくることはなく、逆に施設職員を励ます市民の声を聴いた。

市内の各学校においても、介護施設、病院、そして消防署の職員に感謝や励ましのメッセージを送ろうという動きがある。子どもの言葉には力があり、大人の心に響くものなので、子どもたちのこのような動きが差別や偏見を生まない土壌を作ることになっていくと思う。

#### 若草文学賞について

垂水市文化協会が主催する「若草文学賞」が今年も実施された。「今、私が思っていること」をテーマに、9月から作文の募集を始めて1月の中旬の締切で、市内各小中学校から78作品の応募があった。

コロナ禍の中、様々な制約を受け、学校行事の中止や縮小、家庭での楽しみも奪われるなど非日常の生活を強いられる中、子どもたちがどのような思いでいるのか関心を持って読ませてもらった。思っていたとおり、作文の多くが新型コロナウイルス感染症に関する作文であったが、内容は思っていたものと少し違っていた。

私たち大人はコロナのマイナス面ばかりに目が向きがちだが、子どもたちの作文は実に前向きで、コロナに関する差別や偏見をなくし他人を思いやるやさしさに溢れており、コロナに負けない強い心も持ち合わせている。コロナ禍の中でしっかりと自分の進路を見つめ、夢を持っている子どもたちの思いが詰まっていた。

審査は、西尾佐代子氏をはじめとする垂水市文化協会の皆さんがボランティアで行ってくれた。コロナ禍の中、今年は審査の方法も工夫し、例年なら12人が集まって審査するところを7人の方々が各自持ち帰って審査し、それを採点して持ち寄り各賞を決定されたようである。表彰式は残念ながら中止の判断をされたようだが、子どもたちを大切にする姿に感謝を申し上げたい。

各委員の報告にもあったように、コロナ禍の中でも子どもたちは成長しており、大人にもいい形で関わっていただいている。しばらくはコロナとの付き合いが続きそうであるが、いい年度末を迎え来年度はいろいろなことができたかと考えている。

教育総務課長  
学校教育課長  
社会教育課長  
国体推進課長

4課長から、1月9日から2月9日までの主な行事等の実施状況について報告するとともに、3月9日（次回開催日）までの行事予定についてお知らせした。

6 閉 会